



ぽっかぽか



12月



子ども会 見所紹介

劇『浦島太郎』

～年長の劇のねらい「劇作り」～

年齢によって「劇」に対するねらいが大きく変わります。年長さんは「劇づくり」を大きなねらいとして行っています。年少さんの時の「おおきなカブ」「てぶくろ」では、舞台に立つ、セリフをいうことが大きな目標でした。遊びの延長として行う「劇遊び」です。年中さんの劇のねらいは「みんなで一つの劇にしよう」と、協力することと、役割を理解して友達と一緒に前を向いてセリフを合わせていうことが大きな目標でした。役になることを楽しむ段階の「劇ごっこ」です。

そして年長さんは、自分たちで「劇」をつくっていく「劇づくり」。年少・年中と大きく異なるのが、「子ども達が」主「となる」ことにあります。決められたことをするのではなく、「考える」。そして、「創造する」。どんな流れで劇づくりを進めていったかを紹介します。

☆劇づくりの流れ

①劇決め&配役 ②衣装・道具づくり ③セリフづくり（台本）

昔話ならではの難しい言葉が出てきます。その言葉の意見を尊重しながら「どんな言葉なら言いやすい？」と質問し、一緒にセリフを自分たちの言いやすいように変えていきました。最初に子どもたちに渡した台本には「セリフがない」部分がありました。これは新たにセリフづくりをするためです。「浦島太郎ならこの時になんて言うのかな？」と、役の気持ちになって一生懸命考え、子ども達同士で相談して決めました。

話し合いをして一つの事を決める『協同』そして、物語を理解し、役の気持ちになりきらないと言葉はだめです。素晴らしい『想像力』です。

④動き・表情づくり

セリフに合う「動き」を考え表現します。もちろん、お手本はありません。言葉のイメージを身体で表現することは豊かな「創造力」と「想像力」が必要です。また、他の人が見てもわかりやすいようにするため、どんな風に伝わるか客観的にみる視点も養われます。

いろいろな力が必要ですが、子ども達は楽しく話し合いながら、自然とできています。友達のいいアイデアを「それいいね！」と素直に受け入れたり、「ちょっと変じゃない？」と自分の気持ちを素直に伝え合い、「動きを考える」という共通の目的に向かっている。

お泊り会の時は意見が異なるとなんか自分の意見を通そうと感情的になったり、衝突することがありました。しかし、子ども会では、「考えることが楽しい！」という想いが伝わってきます。感情的にはならず、自分の意見をきちんと相手に伝え、相手の意見も受け入れられる。

まさに「健全な話し合い」ができていました。これは大きな成長だと感じています。⑤仲間と一緒に劇をつくりあげる

舞台での姿勢・声を揃えること・出番がわかることなど毎日ステップアップしながら練習をしています。

そして練習を通して友達や他クラス、大人の反応を反映し、表現方法を修正したりしながら劇をつくっています。

本番までたくさん表現方法を試し協力しながら劇をつくりあげてほしいです。内容は、みなさんの知っている浦島太郎

ではないかもしれませんが、子どもたちの「主体性」を大切にしたい

『シン・浦島太郎』として楽しんでいただけたらと思います♪乞うご期待！！



◆こどもかいのうた

子ども達が大好き！「こどもかいのうた」は、作詞・作曲 こばと会理事長元井由隆のオリジナルソングになります。そのため、卒園児が就学した後、友達に歌っても共感してもらえない！という話もありました。毎年恒例で子ども達が大好きな歌です。子ども会の最後に披露する予定です！はじける笑顔を記憶にも記録にも残してあげてください！！！！